

平成 15 年度 第 5 回市民活動サポートセンター運営委員会 会議録

平成 16 年 3 月 18 日 18:30～20:10
市民活動サポートセンター

出席委員 12 名……新井、水谷、石塚、伊藤、江口、佐藤、柴崎、四分一、多田、田中、細川、松澤
事務局 3 名……YMC A よこすかコミュニティサポート 高村、渡辺 市民生活課 山田

1 報告事項

次第に沿って報告を行った。

2 審議事項

- (1) 市民公益活動団体について、提案どおり承認した。
- (2) 16 年度運営委員会委員長は最も推薦の多かった柴崎委員、委員長職務代理は柴崎委員が指名した多田委員とすることを承認した。

[意見概要]

利用状況について

(松澤委員)

情報化関連の利用団体数は多いが、データベース登録団体は 1 団体となっているのはなぜか。

(事務局)

データベース登録は、登録団体が該当する分野を複数選べるようになっており、その中から代表的な分野をチェックしてもらっている。こちらでイメージしている分野と違う場合も多い。パソコンルームでのサポートセンター主催講座と、市民公益活動団体と情報ボランティア講師との調整で行っているフリープラン講座の受講グループを情報関連の利用団体としてカウントしている。講座受講グループは、さまざまな分野の団体で構成されている場合が多いため、便宜上、このように集計している。

(松澤委員)

フリープラン講座はあまり周知されていないようである。

(柴崎委員)

パソコン講座の講師をしている。フリープラン講座のチラシはあるが、広くは知られていない。今でもニーズが高く、講師も限界ではあるが、情報誌等で、ある程度 PR をしてはどうか。

(新井委員)

PR するのは良いが、対象は市民公益活動団体であり、活動にパソコンを活用してもらうための講座である。個人のスキルアップのためではないということは確認しておく必要がある。

(松澤委員)

久里浜の利用が多くなっている。先日、子ども連れのグループがミーティングスペース利用しており、大人で 1 テーブル使い、隣のテーブルで子どもを遊ばせていて、利用できなかったため、ワーキングコーナーを利用した。汐入はキッズルームがあるので問題ないが、地域のサポートセンターはスペースに限りがある。子どもを連れてくることについては、どのように考えているか。

(事務局)

子どもを連れてくることを制限するルールはなく、今後も考えていない。キッズルームを設けるのも不可能である。現在のスペースで、利用者同士、譲り合って使っていただくしかないと思う。

(細川委員)

汐入で、子どもをキッズルームに一人置いて、フレキシブルコーナーを利用しているグループがおり、子どもが外へ出てしまうということがあった。利用団体の大人が責任を持って見てくれないと、周りが心配になってしまう。

(水谷委員・新井委員)

久里浜の件にしても、汐入の件にしても、そこにいた人、周りの利用者が、声を掛け合っていくべきである。

のたろんフェア報告について

(江口委員)

運営ボランティアの高校生を紹介したが、参加した高校生が、多くの人と交流ができ楽しかった、良い経験になった、またやりたいと話していた。サポートセンターは若者にはあまり関係ないというイメージを持っていたが、今回のフェアは若い人たちが盛り上がっていて、今後の市民活動の広がりを期待させるものがあった。多くの人にサポートセンターを知ってもらうことができた。

(新井委員)

来場者の多くがスタンプラリーやフリーマーケットに夢中で、活動を知ろうというところまでいっていないことやスペースの問題等、次回に向けての課題は多少あるが、実行委員の人たちが楽しみながら活躍してくれたのが非常に良かった。

(多田委員)

昨年、実行委員を務めた。今年はドブ板バザールと日程がずれてしまったので、来場者が減るのではと心配したが、来場者をはじめ、フェアの目的や流れを理解して動いてくれる人が多くなり、とても良い形ができていると思った。参加団体同士が親しくなる機会づくりができた。

(事務局)

佐藤委員、四分一委員には、実行委員としてご活躍いただき、また、江口委員には、高校生のボランティアを多数ご紹介いただき、大変ありがたく感じている。

横須賀ロータリークラブからのDVDレコーダーの寄贈について

(事務局)

本日、横須賀ロータリークラブから市民活動サポートセンターにDVDレコーダーを寄付していただいた。利用者の声でも要望が上がっていたものである。今後、活用講座等を行って、利用団体の方々に活用していただく。

(柴崎委員)

活用講座はいつ頃を予定しているか。

(事務局)

まずは、スタッフが利用者に使い方を説明できるよう研修を行う。準備できれば4月中には実施したい。機器のPRは4月の情報誌のたろんに掲載予定である。

市民活動サポートセンター条例・規則の改正について

(松澤委員)

条例は議決を要するとの説明があったが、規則改正はどのように行うか。

(事務局)

規則改正は、市長まで決裁を上げる。

(松澤委員)

使用時間、休館日が条例になるので、変更する場合は慎重な検討が必要である。

市民公益活動団体について

(柴崎委員)

公益活動団体が 362 団体で、番号が 512、602 と飛んでいるのはなぜか。

(事務局)

現在の登録が 512 団体で、そのうち公益活動団体が 362 団体ということである。602 は今までに登録を申請した団体数なので、解散等により登録を削除した団体もあり、欠番が含まれている。

委員長、委員長職務代理の推薦について

(事務局)

16 年度運営委員会委員長は最も推薦の多かった柴崎委員にお願いすることとしたい。
委員長職務代理は、要綱で委員長が指名することになっているため、柴崎委員にご指名いただく。

(柴崎委員)

委員長職務代理は多田委員を指名する。

(新井委員)

16 年度委員長は柴崎委員に、委員長職務代理は多田委員にお願いすることとしたい。

ー 拍手をもって承認ー

これまで委員長として、利用者である市民の役割、責任を意識し、開かれた運営委員会をと努力してきた。肩の荷がおりたというのが本音である。来年度は委員としてサポートセンターの運営を考えていく。

(水谷委員)

委員長職務代理として、委員長を代理したのは一度だけだが、今後も、運営委員として、利用者として、可能な限り、サポートセンターの運営にかかわっていかうと考えている。

(柴崎委員)

委員の総意で機能するのが運営委員会であると考えている。新井委員長、水谷委員長職務代理には、これまで、良い形で運営してきていただいたことに感謝申し上げます。今後も引き続きご協力願いたい。微力ではあるが、より良い運営委員会、サポートセンターを目指して努力したい。

(多田委員)

不慣れではあるが、運営委員のみなさんの協力をいただきながら、責任を果たしたい。新井委員、水谷委員には、これまで以上のご支援をお願いしたい。

その他

(細川委員)

資料 8 の最終ページ、「◆今後に向けて」①に「運営委員会によるサポートセンター運営の評価指標を作成する」とあるが、これは実施するのか。

(事務局)

運営を受託している立場からの提案である。今後、運営委員会の課題として検討していただきたいと考えている。

(新井委員)

企画提案型市民協働モデル事業のタイトルにある「風紀」という言葉は、古いイメージがある。

以上